「父なる神の赦しと愛」

ルカによる福音書 15 章 11-32 節

2024.3.24

●アウトライン

１．父なる神の愛

・ルカによる福音書 15 章で語られる 3 つのたとえ話

・「放蕩息子」のたとえ

・人生のどん底を経験し、我に返る弟息子

・罪を赦し、子どもとして迎え入れる父親

・父の喜び。「死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかった」（24 節）

・放蕩息子の父親の姿に見る、父なる神の愛

２．父なる神の赦しと十字架

・「放蕩息子のたとえ」には、「神の怒り」と「キリストの十字架」がない？

・父なる神の怒りと憐れみ

・父なる神の犠牲とキリストの十字架の死

●聖書箇所

【詩編 30 編 6 節、旧約 860 ページ】

「ひととき、お怒りになっても／命を得させることを御旨としてくださる。」

【エゼキエル書 18 章 23,32 節、旧約 1322 ページ】

「わたしは悪人の死を喜ぶだろうか、と主なる神は言われる。彼がその道から立ち帰ることによって、生きることを喜ばないだろうか。……わたしはだれの死をも喜ばない。お前たちは立ち帰って、生きよ」

【ヨナ書 4 章 2 節、旧約 1447 ページ】

「わたしには、こうなることが分かっていました。あなたは、恵みと憐れみの神であり、忍耐深く、慈しみに富み、災いをくだそうとしても思い直される方です。」